

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成三十年九月度 入選句（投稿総数二千四百二十三句・小中学投句数千八百十三句）

特選

選者 高木 佐知子

サンダルに足型残し秋がくる 大垣市 川村 梨々花(小五)

夏の間どこへ行く時もはいていたお気に入りのサンダルは、二学期が始まると玄関の片隅でひと休みです。サンダルに残る足の指やかかとの跡は、楽しかった夏を思い出す跡でもあるのでしょう。夏の思い出を力として前に踏み出そうとする作者の決意が下五の表現から伝わってきます。「夏終わる」ではなく「秋がくる」という下五の言葉が、この一句を明るくしています。

日焼けしたかおでにっこり登校日 大垣市 渡辺 真衣(小六)

夏休みは毎日友だちに会うことができないので、久しぶりに会える登校日は楽しみなのです。その喜びが「にっこり」という言葉から伝わってきます。さらに日焼けした笑顔というのですから、元気で明るい小学生の声が聞こえてきそうです。「日焼け」が夏の季語です。登校日の一日で友だちの大切さを改めて感じることもできたことを物語る一句です。

一面に金のじゅうたんいなごとぶ 大垣市 堤 彩 奈(小四)

お米が実り、太陽の光をあびて金色に輝く田んぼが目には浮かびます。その風景を「一面に」「金のじゅうたん」とたとえて表現したところが工夫点として光ります。稲穂の間に見え隠れするいなごのとぶ姿も光って見えたのかもしれないですね。俳句から「金」という色、「とぶ」という動きを感じることもできる楽しい一句になりました。

秀逸

あおばかぜせなかにすこしささやいて 大垣市 河合 悠宇(小六)

大垣の空をうつすよ夏の川 大垣市 天神林 煌希(小六)

ひまわりとせいくらべしてかっちゃった 大垣市 高橋 凧咲(小三)

うんどうかいぼくのでばんがいよいよだ 大垣市 ひびの はるく(小二)

ながればしどこかいくまえねがいごと 大垣市 白石 なぎ(小三)

ふうりんの音につられて虫がくる 大垣市 しんどうこうしろう(小四)

どんぐりを回して対戦どっち勝つ 大垣市 世良 透也(小五)

スイカわり右か左か真ん中か 大垣市 大橋 叶夢(小六)

ぼくりーち大声出すよ夏祭り 大垣市 井上 尚也(小六)

にぎやかに湧く水沸く夏たらい舟 大垣市 平田 ひなの(中二)

入選

青葉ゆれ両手広げて深呼吸 大垣市 松本 彩花(小六)

青空に太陽キラキラ夏をよぶ 大垣市 江森 夏菜(小六)

赤い橋夏の水面の水さい画 大垣市 吉野 葉澄(小六)

夏の川鏡になつて映す橋 大垣市 小寺 陽香(小六)

みいつけた青葉にかくれる川灯台 大垣市 藤原 帆花(小六)

青葉風体にふれて通りすぎる 大垣市 金山 彩花(小六)

なつのうみもぐつてさかなとこんにちは 瑞穂市 さとう あおり(小二)

こうろぎがぼくのめのまえハイジャンプ 大垣市 大平 りくと(小二)

あせがでるてきもしんけんきをぬくな 大垣市 くぼた かほ(小二)

リーンリンこころふるえるあきのこえ 大垣市 にしかわ けいすけ(小二)

入選

逆あがりひつくりかえつた紅葉山 大垣市 仲井 心菜(小六)

すずむしがみんなあつめてうたうたう 大垣市 はぎのした ゆか(小三)

あいさつが空にひびくよ秋の道 大垣市 高橋 美紀(小四)

「あとちよつと」月を見上げて手をのばす 大垣市 小林 凜子(小五)

ケンカして外でも中でもいなづまが 大垣市 高田 凱聖(小五)

妹にどんぐりブレスプレゼント 大垣市 遠藤 來花(小五)

流れ星かなえる前に消えさつた 大垣市 三輪 亮太(小六)

夕ぐれの風におされる赤とんぼ 大垣市 神原 心音(小四)

もみじの葉拾って遊んだ小さな手 大垣市 小田切 亜美(小四)

えらそうにひげをはやしたさつまいも 大垣市 三輪 柚花(小五)

選者吟

百年を祝い無花果熟れにけり

佐知子